



## 第35回記念インタビュー

# 誰でも気軽に楽しめる 「現代学生百人一首」

文学部日本文学文化学科 准教授

高柳 祐子

## Profile

文学部日本文学文化学科准教授。博士(文学)。専門分野は和歌文学、中世文学。第33回東洋大学現代学生百人一首より選考委員に、第34回・35回で選考委員長を務める。論文に「甘露寺親長の歌会 ― 室町和歌史一面」(国語国文86巻11号)、「歌人式子内親王の播磨期をめぐって」(和歌文学研究106号)など

## 初めての短歌にお薦めの入門書

1日1テーマ30日間のドリル式で、短歌の基礎知識や作り方のコツがわかる実践的入門書。著者の中川先生は歌人で、第35回「現代学生百人一首」の選考委員も務めています。初歩から学びたい人に、先ず手に取ってほしいやさしい一冊です。

『30日のドリル式  
初心者やさしい短歌の練習帳』  
著：中川 佐和子 出版：池田書店



## 1 実は論理的。 短歌を読み解く面白さ

私は中世(12世紀～16世紀頃)に作られた和歌を中心に研究を行っています。詠まれた場所や歌人に注目したり、または表現方法から一首の意味や解釈を探ったり、さまざまな観点から和歌というものの解明を目指しています。和歌・短歌がどういうものか、わからないという声をよく聞きますが、私も高校までは短歌は抽象的で詠むのにセンスが必要なものだと思っていました。しかし大学で和歌文学を研究している先生と出会い、実はとても具体的に論理的に解釈できるものだということを知り、その奥深さに魅了されていきました。例えば、ホトトギス。古典の世界では非常に重要な鳥とされていて、ホトトギスを用いた和歌は「待ち望む心」を詠むとルールが決まっています。五・七・五・七・七の31文字のなかで、詠んだ人の待ち望む心がどのような言葉で表現されているのかを押さえ、その本意を読み解く。そのような面白さがあります。

## 3 作品を鑑賞するときは考えず、 感じてほしい

「現代学生百人一首」では「現代学生のもの見方・生活感覚」をテーマに、児童・生徒・学生ならではの視点で日常をリアルに切り取った作品が毎年集まります。今回はコロナ禍で通常の学生生活が叶わない中でしなやかに適応し、マスクで「盛れる」とこの状況を前向きに楽しんだり、逆に部活動が思うようにできない憤りを詠んでみたりと学生たちの思いが作品を通してうかがえました。一方で、恋や勉学・進路の悩みといったいつの時代も変わらない青春を詠んだ作品も多くあります。その時勢を映す「変わる青春」と「変わらない青春」を、世代を超えて楽しんでもらうことができます。作品一つをとっても、鑑賞する側の世代や立場によっても受け取り方は異なり、共感するポイントも皆それぞれです。鑑賞するときは難しいことは考えず、感じたものを大切に思う存分、作品のなかにある青春に浸ってほしいと思います。

## 2 短歌の魅力は とても気軽に始められること

31文字の型が決まっいて、誰にでも気軽に作りやすいのが短歌の魅力です。また、五・七・五・七・七の韻律が日本人によく馴染んでいるのも永く愛されている理由だと思います。この文字数には、すべてを表現せずとも想像を膨らませるために必要最低限の情報が入るといった絶妙さがあります。伝えたいことは伝えつつ、想像できる裁量が鑑賞する側に委ねられているので、短歌の表現は共感されやすいのだと思います。例えば、「現代学生百人一首」に数学の「動く点P」を詠んだ作品がありますが、「点P」という共通認識から学校の教室や黒板に書かれた数式、学友との思い出など鑑賞者それぞれの「点P」にまつわる情景が連想されていきます。「現代学生百人一首」は、多くの方が学生時代に経験したり、感じた共通項を踏まえているものが多いので、より共感性が高い作品が生まれるでしょう。

## 4 35年継がれてきた 「現代学生百人一首」

「現代学生百人一首」は35回目を迎えました。この規模の学生短歌コンクールはほかに類似がなく、毎年楽しみにしているファンの方も多くいます。なかにはこの「現代学生百人一首」が縁となり、東洋大学に入学した学生もいました。短歌を詠む学生は次の世代へと変わっていきませんが、作品は普遍的なものとして残っていきます。また継続することで、年々、学生たちの変化も見えてきます。例えば今後コロナが終息した時には、さまざまな感性の作品が新たに生まれるでしょう。ニュース等では伝わらない学生の心の内や姿勢が作品から見えてきたりしますので、そのような面でも作品として残ることは非常に価値があるものだと思います。

この「現代学生百人一首」を通して、古典に興味を持ったり、過去の作品に触れて当時の学生が何を感じながら過ごしていたのかを知り、現代との違いに驚いたりしてもらえるとうれしく思います。

## ◆百人一首にまつわる貴重資料

本学附属図書館では百人一首にまつわる華麗な絵巻や絵本、かるたなどの貴重書を多数所蔵しており、国内でも有数のコレクションです。日本の伝統文化を後世に伝える役割を担っています。



百人一首かるた  
刊年：江戸時代

読み札・取り札とも8.5×5.5cm、墨書の百枚揃い。赤錆色の被せ蓋の外箱に収納。



小倉擬百人一首  
刊年：天保・弘化頃

百枚揃い、大判錦絵。小倉百人一首の歌を基に役者絵を擬して当世風に仕立てたもの。

高柳先生が語る『なぜ、現代短歌がZ世代の心をつかむのか？ブームの鍵は「いいね」にあった』をWebメディア「LINK@TOYO」にて公開中です。

LINK@TOYO

検索

